

優良賞

思いやりを持つ

真鶴町立真鶴中学校二年 松本 菜楓

「思いやりを持って行動しよう。」誰もが一度は耳にしたことがある言葉だと思います。私はこの言葉を聞くと、思いやりを持って行動することは難しいことだと感じます。なぜそう思うのか。思いやりとはどういうことなのか改めて考えてみました。

私は、バスケットボール部に入っています。スポーツをするときに味方にパスを出すタイミング・強さ・スピード・位置などを考えてパスをします。それができないと、パスを出す相手が苦しい＝思いやりがないということになると私は考えます。一人ひとりが思いやりを持って行動することで多くの人が気分良く過ごせる空間ができると思いました。スポーツには「スポーツマンシップ」「フェアプレイ」という言葉があります。フェアプレイには、お互いに感謝する・全力を出すという意味があります。全員が全力を尽くすことで、嬉しいや悔しいなどの感情が生まれます。これは、お互いに何かを楽しむために必要な思いやりだと思えました。

また、思いやりはコミュニケーションなどの他者との関わりの中で大切だと思います。家族や友達などの身近な人と話をするとき、自分が思うことをすぐに伝えてしまったら、相手はどう思うのかや傷をつけてしまう言葉ではないか等を考えなければいけません。自己中心の考え方で周りの人をイヤな思いにしていることがないようにするには、自己中心ではなく、他者中心で考えてみる必要があると思います。思いやりを持って行動するためにはその相手のことを理解することが大切だと思います。お互いの良いところ、悪いところを見つけてほめ合ったり、悪いところを補ったりすることで他者との関係の中でお互いに思い合えると感じます。

しかし、私は誰かに助けられたときに「助けてもらわなければならないのに。」と素直に感謝できないことがあります。相手は自分に対して、思いやりを持って接してくれていたのにどうしても素直に「ありがとう」の言葉が出ないのはなぜか考えてみました。その理由の一つに「自分一人のできるのに。」という感情があることに気がきました。もし、自分の目の前に重そうなものを一人で持っている人がいたら、声をかけるか迷ってしまうことがあります。なぜなら、相手が助けを求めているかもしれないからです。相手がそう思っていたら「迷惑」になってしまいます。思いやりは場合によっては迷惑になってしまうことがあります、それを自分で見極めなければならぬと感じました。

私は「思いやり」について改めて考えてみて、思いやりは他者を助けること・お互いに良い気持ちで生きていくために必要なことだと思いました。そのために、相手の気持ちを考え、どんな言葉をかけるかやどう行動するかをその場面の中で整理し、行動に移さなければいけません。だから、思いやりを持って行動することは難しく、人を助けるのにためらってしまうことがあると思いました。これから色々な人と関わっていく中で自分の行動を見直し、自分から自分の周りの人へその人からまた次の人へ思いやりが広がっていくように行動したいです。